

ICタグで廃棄物分析

ゼロエミシステム開発

積水ハウス 日本総合研究所

積水ハウスは日本総合研究所（東京都千代田区、木本泰行社長、03・3288・4700）と共同で、ICタグを活用して廃棄物発生量の精密なデータを収集・分析する「次世代ゼロエミシステム」を開発した。得られたデータを

開発部門や生産工程にフィードバックする試験を実施し、廃棄物の重量を約2・4%削減することに成功した。

今後、システムの導入コストの削減を進めるほか既存システムとの融合を促進して、本格導入を検討する。

同システムは新築施工現場で廃棄物を27種類に分別し、ICタグを廃棄物回収袋に取り付ける。収集・運搬担当者がICタグを読み取って重量を測定する。集荷拠点では廃棄物回収袋を入れるための廃棄物回収容器にICタグを取り付け、回収

車両に積み込む。

回収車両が廃棄物を資源回収センターに搬入した際にデータを読み取る

仕組み。これらのデータをもとに、現場ごとや分別種類ごとに廃棄物発生量を集計する。

さらに支店ごとや職人ごとに発生量を分析し、開発部門や生産部門にフィードバックする。